

# 土曜リポート「孤立死」現場潜入

人は一人で生まれ、一人で死んでいく。ベルトコンベヤーのように何千年、何万年と繰り返されてきた作業だ。遺品整理業「キーパーズ」代表の吉田太一さんは、「これまでに数多くの孤立死死の現場に立ち会ってきた。それは辺りに異臭が立ち込め、腐乱した体に蛆虫やゴキブリがたかる修羅場だった」。

腐乱した死体から溶け出しあった体液が床に染み込み、階下の天井まで漏らす。そこに蛆がわき、ようやくアパートの住人たちが騒ぎ出す。

そうなるまで誰も隣人などに関心はない。むしろ、異臭はしても関わりたくないのだ。腐乱した人間は独特の臭気を発する。とくに夏場は覺悟が必要。鼻がひん曲がるほど強烈な臭気が襲ってくる。息を止めても、臭いは毛穴から侵入し、体に伝わるのだという。

今年、日本列島は連日35度を超す猛暑日が続いた。そんな時は、猛烈な臭いで胃の腑息を止めても、臭いは毛穴から侵入し、体に伝わるのだと異なる。

死ぬ前から  
ゴミ屋敷